

立教大数理データサイエンス教育プログラム
自己点検・評価報告書

2026年2月

立教大学社会情報教育研究センター

立教大学で本年度スタートした立教大学数理データサイエンス教育プログラムについて、以下のとおり自己点検・評価を行ったので報告する。

◆点検・評価のための確認事項

•数理データサイエンス入門コースおよび応用コース対象の科目群について、科目の構成及び2025年度シラバスと具体的講義内容、および2026年度シラバス案を確認し、文科省が定める数理・データサイエンス・AI教育プログラムで、教育に求められる内容を含むプログラムとして展開されており適切であると判断された。

•2025年度科目別に授業期間中での個別での調査および今後の学習姿勢についての学生の授業内での振り返りから、概ね高い満足度と継続学習の意欲が見て取られ、適切であると判断された。なお、全学で実施している授業評価アンケートの実施結果については、公開後に再度確認を行うこととした。

◆自己点検・評価における各視点

プログラムの履修・修得状況

【現況】

本教育プログラムは、2025年度秋学期に新規に開講された全学共通科目「データサイエンス入門」、「データサイエンス応用」に、既存科目の「多変量解析入門」および英語開講科目「Introduction to Multivariate Analysis」で構成されており、立教大学で開講されているグローバル教養副専攻データサイエンス副専攻のサブセットともなっている。新規2科目は、キャンパスの制限なく全学学生が履修できるオンデマンド形式の科目である。なお、定員は200名である。

【自己点検】

本教育プログラムは、多くの履修希望が予想される科目であり、初年度も入門科目は、履修希望者が定員を上回る状況となった。2026年度からその履修希望に応えられるよう、春秋両学期での開講とすること、および定員を300名として開講することを提案し、学内了承を得られた。

【評価】

学生のプログラムの履修希望に応えられるような対応を行っており、またその履修希望に添える指導体制のための助教を1名追加する人事強化も行っており、問題ない体制であると評価できる。

学修成果

【現況】

学生の履修開始時での目標設定および中間と最終振り返りによる教育効果測定と授業評価アンケートを実施し、その結果をもとに学生の学習動機や学修成果を把握した上で、FD活動に活用している。担当教員および関連する教育組織で教育効果測定や授業評価アンケート結果を共有し、効果的な授業方法や成績評価の様態について情報共有及び議論を行うとともに、授業方法や成績評価の方法などについて、随時、担当教員間で十分に意見交換がなされている。

【自己点検】

教育効果測定、授業評価アンケートにより、学生の学習成果の把握をするとともに効果的な授業方法の共有を図っており、適切に取り組んでいる。

【評価】

担当教員間で恒常的な改善への取り組みが行われており、プログラム全体としてのPDCAサイクルが整えられていると評価できる。

学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

【現況】

2025年度スタートということもあり、授業開始時と授業途中に、全学的な授業評価アンケートとは別に、各自の目標及び、中間での達成度および目標の修正をさせ、学生の授業内容の理解度を把握する取り組みを行った。

【自己点検】

様々なバックグラウンドを持つ学生が学ぶという特性に応じた適切な難易度設定と事例紹介を行うように試みているが、修得状況と課題のバランスについては、教育効果測定、授業評価アンケートなどを通じて、今後も継続して改善を行っていく。

【評価】

評価として、一部理解に難しいと感じる分野（特に応用レベル）があり、補助教材の追加を検討し、2026年度科目に組み込む必要があると判断しているが、概ね適切な難易度設定に継続して取り組んでいることは評価できる。今後オンデマンド科目の特性を活用し、分野や教材単位でより詳細に個別学生の理解度の把握とその対応に向けた取り組みを進める必要がある。

数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

【現況】

学生の「数理・データサイエンス」技術の重要性理解と学習動機向上を目的とし、AIやデータ活用を専門とする様々な分野の専門家をゲストスピーカーとして招待し、多くの学生の学習意欲を高めることとこの分野の社会的ニーズの理解をすすめる努力を行っている。

【自己点検】

学生の振り返りの結果は、ゲストスピーカーの教育効果は大きいことを示している。また、4名のゲストスピーカーがすべて立教大学の卒業生であった点も、身近に感じることと合わせ、立教での学びへの自信にもつながった学生も多く見られた。なお、より多くの学生の興味を喚起させるため、継続的に、ゲストスピーカーの講義の拡充とアップデートを継続する予定である。

【評価】

立教の先輩方のこの分野での活躍と具体的な活用事例の紹介が、学生の学びの意欲向上を促しており、高く評価できる。

内容・水準を維持向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

【現況】

全学共通科目であることから、様々なバックグラウンドを持つ学生が受講しており、入門科

目と応用科目における先修性の推奨を行うとともに、事例を持ちいる場合も、特定の専門性を求められない身近な事例を取り入れることを試みている。なお、オンデマンド形式での授業配信であり、個別の理解に合わせて繰り返し閲覧できる体制は整えている。

【自己点検】

適切な難易度設定が行われていると判断するが、引き続き学生の振り返り、授業評価アンケートおよび教育効果測定を反映することにより、標準教材のブラッシュアップを継続的に行う必要がある。

【評価】 学生のバックグラウンドに応じた適切な難易度設定に取り組んでいることは評価できる。引き続き、学生の理解度を踏まえた教材の改善と時代の変化に即した適切な内容のアップデートを行う必要がある。

産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

【現況】

学外協力者として、データサイエンスや人工知能をビジネスの偏場で活用している立教大学の卒業生4名を指名し、教育プログラムへのアドバイスや評価を行う体制を整えている。

【自己点検】

4名の学外協力者は立教大学の卒業生であることから、立教大学の教育の理念をよく理解しており、またそれぞれのビジネス等の現場で最先端のデータや生成AIの活用を行っている有識者であり、学外からの視点の取り込みの機能は有効であると判断できる。また、学生へのアドバイスも講義に含めており、学びのモチベーション向上につながったと評価している。

【評価】

初年度として、産業界からの視点を取り込む点は成功したと評価できる。なお、変化の激しい分野であることから、今後のアップデートについて、学外協力者の入れ替えを含め、検討を継続する必要がある。